

ならまち

ならまち刀剣ショップ杜園
登録有形文化財
佐埜家住宅
(さのけじゅうたく)



①歴史・概要

奈良町の中心部にあり、一刀彫で知られる森川杜園が建てたと伝わる町家です。正面(東面)はつし2階の形式で、左右に出格子を構え、2階の軒は出桁(だしげた)で受けています。表屋造の形式で、南側に通り土間、北側に居室を並べます。正面の店舗の奥には坪庭があり、壁面に杉皮を使ったり、2階の窓から濡縁を出したりするなど、凝った意匠が特徴的です。江戸末期の伝統的な奈良の町家の特徴をよく伝える建物として、価値があります。

平成28年(2016)から店舗としても活用されています。

森川杜園(もりかわとえん)

文政3年(1820)~明治27年(1894)。奈良の伝統工芸である奈良一刀彫(奈良人形ともいう)の多くの優れた作品を残した彫刻家。山田弥兵衛の名で狂言師としても活躍しました。

右図:『大和名勝豪商案内記』明治17年(1884)
「奈良中新屋町」とあり、この建物で仕事をしている杜園の姿が描かれています。

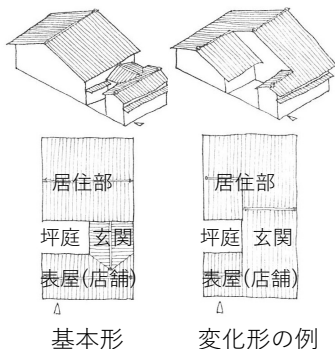


②見どころ:表屋造(おもてやづくり)

表屋造とは、町家の形式のひとつです。通りに面する表屋(店舗)と、敷地奥の居住部とを分けて建て、その間を玄関でつなぐのが基本です(奈良町にぎわいの家がこの例)。

奈良町には他にも様々なタイプの表屋造がみられます。佐埜家は右側の図に近い形態ですが、表屋と居住部を玄関でつなぐのは基本形と共通で、現在もそのかたちが維持されています。杜園は、表屋で仕事をしていたようです。

表屋造には坪庭があるのが特徴です。佐埜家では、庭石、植栽、燈籠を配し、周囲を囲む軒は、垂木の上に「小舞(こまい)」とよぶ細い横棧を付けた瀟洒な意匠です。外観からは想像できない、豊かな空間となっています。



表屋造